

1 自己評価及び外部評価結果(第2こうせい苑)2ユニット共通

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775502525		
法人名	医療法人 幸晴会		
事業所名	第二こうせい苑グループホーム		
所在地	大阪府八尾市中田3丁目54-26		
自己評価作成日	令和 元年 10月1日	評価結果市町村受理日	令和元年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2775502525-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪市東成区中道3-2-34 JAM大阪2F
訪問調査日	令和元年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全ての利用者様に安心して生活していただけるよう、常に寄り添い思いをくみ取り、柔軟な対応を目指し、職員が一丸となって取り組んでいる。
 母体が医療法人で医療との連携を図り、看取り介護の経験も多数ある。
 法人全体として、地域へより質の高いサービス提供を目指し、法人内の事業所が参加できる研修会や資格取得支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に貢献する医療法人が、利用者の声に応え開設したグループホームです。先代理事長の思いが名前に込められ、「地域に密着したサービスを提供する」思いは今も引き継がれ実践され、地域から信頼を得ています。ホーム長や職員は、常に理念を基本とし、利用者一人ひとりを大切に、利用者の笑顔が見たいとの思いで暮らしを支えています。開設当初から看取りの方針を掲げ、看取りの経験からの貴重な学びを日常のケアに活かしています。美味しい食事や利用者の楽しみのひとつになっています。「職員が幸せなら利用者も幸せ」とホーム長は職員にも常に関心を寄せ、職員が安心して働ける職場環境は、明るい温もりある雰囲気を作っています。母体の医療法人との連携は、利用者・家族の大きな信頼と安心感に繋がっています。利用者の身だしなみが綺麗なことも、利用者一人ひとりが大切にされていると伝わるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(第二こうせい苑)2ユニット共通

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に事業所の理念を作り、事務所やフロアに掲示している。理念の実践に努めている。	法人理念に基づき、「これまでの生活を継続できるよう支援します」「常に笑顔で利用者様に寄り添ったケアを支援します」「地域と連携し安心・安全な生活を支援します」の理念を掲げています。職員は理念をよく理解し、利用者に寄り添った支援を実践しています。理念は、事務所やフロアに掲示し、日常的に確認できるように工夫しています。また、理念の具体化のために、年度の目標を決め実践しています。 家族に送る通信に理念を掲載し、また、運営推進会議の中で理念を紹介する等、地域や家族に理念をより理解・支持してもらうように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーやレストランに出掛けている。散歩時には近隣の方とあいさつを交わし地域の一員として交流している。定期的にコーラスのボランティアに来ていただいている。	理念のひとつに「地域と連携し安心・安全な生活を支援します」と掲げ、地域との連携に取り組んでいます。ボランティアの訪問も多く、コーラス・大正琴・歌体操・フラダンス等の協力は、利用者の豊かな生活を支える大きな力になっています。グループホームの存在も地域に定着し、通りすがりの人が認知症の相談に立ち寄ることもあります。地域の運動会に参加することもあり、子ども会の古紙回収にはホームも協力しています。常に地域に貢献できるグループホームでありたいとの考えです。	長年積み重ねた認知症ケアの知識や技術を、地域の認知症に対する啓発に活かす活動が、今後一層広がる事が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加された地域の方や家族様に、認知症の方への支援の方法、実践していることなどを伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、地域の方、利用者様、家族様が参加している。利用状況、研修報告、行事報告等を行っている。包括の方が制度等の情報を提供して下さる。	利用者・家族・高齢クラブ会長・民生委員・地域包括支援センター職員等の参加で2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しています。会議では、ホームの活動状況報告や取り組み等を報告し、参加者から意見・評価・助言を得て、ホームの運営に活かしています。会議では、報告だけでなく、ホームが抱えている問題も開示し、開かれた運営推進会議を心がけています。事業所内で困っていること、悩みを理解しアドバイスを得る場として活用し、サービスの向上にいかすことができていると、職員は感謝しています。また、学んだ研修について話し合うこともあり、参加者から「ここに来たら勉強になる」と言ってもらえる会議です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当部署の方とは常に連絡・相談できる環境にある。	市関係部署の担当者とは、いつでも相談できる関係が築けています。運営推進会議にも市の職員が参加しています。外部評価の結果や事故報告もできています。ホーム長は、介護保険事業者連絡協議会のグループホーム分科会の幹事で、市の担当者との関係も密です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修を受け何が拘束かを理解し、日々のケアに取り組んでいる。但し、外は車の往来が激しく、事故もよくある場所の為、玄関は施錠しているが、閉じこめられているという思いにならないように、職員付き添い外出の機会を設けている。	ホーム長は、身体拘束をしないケアの重要性を十分認識し、職員の研修、指導をしています。法人全事業所職員研修会の身体拘束についての講師は、ホームの職員が担当しています。運営推進会議でも、身体拘束について話し合いました。玄関は、現在ホーム前道路の交通量が多く、危険な状況で施錠していますが、利用者が外出したい様子を察知したら、職員がさりげなく声掛けして付き添うなど、安全に配慮し、自由な暮らしの支援に努めています。ホーム長は、気分転換できるための勤務表に工夫するなど、職員のストレスが溜まらないように配慮して見守っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・伝達研修で学んでいる。職員間は話しやすい雰囲気、情報共有ができています。職員間にストレスが溜まらないよう、職員の表情等で把握に努め、働きやすい環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修に参加し伝達研修で学んでいる後見人制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づいて行い、ご理解・納得していただいた上で契約を結んでいる。加算等で利用料金が改正される時は文書および口頭で説明を行いご理解いただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人やご家族様とは常にコミュニケーションを大切にし、意見や希望を話せる雰囲気作りを心掛けている。公共機関の苦情受付窓口を重要事項説明書に記載している。	家族の面会時には、その都度声掛けして、利用者の状況を報告し、要望や意見を聞くようにしています。家族の代表には運営推進会議で意見を聞いています。年1回開催の家族交流会にはたくさんの家族の参加があり、意見や要望を聞く機会になっています。ホーム長や職員は、利用者や家族との信頼関係を築くことで、率直な意見や要望を出してもらえと考えると、コミュニケーションに努めています。家族からの意見は、真摯に受けとめ、サービスの改善に活かしています。利用者の生活が伝わる、写真を多く入れた機関誌の発行も家族に喜ばれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティング等で職員からの意見や提案を話しやすいような雰囲気作りを努めている。出された意見等を検討し、サービス向上に繋げている。	毎月開催されるフロア会議は、勤務の都合で参加できない職員も、事前に書面で意見を出してもらい、全員の意見でサービスの向上に努めています。全体会議も毎月開催し、職員は自由に話し合い、サービスの向上や運営に活かすよう努めています。ホーム長は年2回、職員がセルフチェックシートでの自己評価後に、面談の機会を設け、悩みや課題等について聞いています。また、「職員が幸せなら利用者も幸せ」とホーム長は職員にも常に関心を寄せ、職員が安心して働ける職場環境への配慮は職員の士気を高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が専門職としての目標や充実感を持ち業務に取り組めるよう、研修会や勉強会を通じて意識向上を図っている。働きやすい環境づくりに配慮し、職員の定着に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において介護福祉士受験対策講座や14項目にわたる法人内部研修を設け、職員のスキルアップを図っている。又事業所内での会議や勉強会を通じて意識向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業者連絡協議会のグループホーム分科会に加入。管理者は幹事として活動し、他施設見学会や懇親会などに積極的に参加し情報収集・交換に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活環境に配慮し、本人の要望に出来る限り沿った援助に努めている。入居後の一週間は本人の要望・好みや様子など、かかわった職員が表に記録し、情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とのコミュニケーションも大切と考え、家族様の要望や不安に耳を傾け、利用者様の様子を小まめに伝え、安心していただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や担当ケアマネ、医療情報などから必要な支援を見極め、サービス計画に反映させている。必要時には医療との連携も行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩から学ばせていただくと言う意識を持ち、ホームを利用者の家と捉え一緒に家事をし、一緒に食事を摂る家族のような関係を築いている。職員はその時々で娘、息子、嫁等のような存在になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態に変化があった時は都度報告し、共に支えていくようにしている。家族様が職員のアドバイスを受けながら食事介助や身の回りのケアをされることもある。家族様も一緒に食事をすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく友人の面会も本人と一緒に歓迎している。以前入居していた施設に遊びに行き、顔なじみの職員に会って喜ばれることもある。	「今までの生活を継続できるように支援します」を理念の一つに掲げ実践しています。ホームへ入居する前の施設から友達が訪問したり、こちらから施設に行く利用者もいます。法事や墓参りに行く利用者もいます。馴染みの友達からの昔ばなしから、利用者への理解が深まることもあり、職員は利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せることでケアの幅を広げることができ、家族や友人を通して多くを学んでいます。長年書道を頑張ってきた利用者の部屋には、これまで使ったたくさんさんの筆と作品が飾られ、誇らしげに書道の話をする利用者の表情に、質の高い個別ケアをみることができます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士の席を近くにしている。家事やレクレーションと一緒に参加してもらい、他者とのかかわりが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居様の家族様が気軽に立ち寄ってくださっている。お花を頂いたり近況報告をされる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示ができる方については要望に沿えるよう支援している。訴えが困難な方には、日常的なかかわり中から思いをくみ取り、出来る限り思いに寄り添うよう努めている。	利用者一人ひとりの思い・希望等の情報収集については、入居時の事前面接で、本人・家族から聞き取り、記録しています。日常の関わりの中での気づきや発見も記録に残し、日々の支援に繋げています。職員は、重度になり意思表示が困難な利用者でも、関わることで変化を見つけることができることを共有しています。勤続年数の長い職員が多いことで、利用者との馴染みの関係ができ、質の高い個別支援に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のサマリーや家族様からの情報や本人との会話から生活歴等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の体調に合わせた生活ペースを心掛けている。モニタリングやカンファレンス、連絡帳等で日々の生活状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングや4ヶ月に一度のカンファレンスで課題を検討し、時には本人が参加することもある。必要時には他機関の意見を聞くこともある。家族様にはその都度意向を確認している。	介護計画書は大阪認知症高齢者グループホーム協議会のサービス計画書の書式を活用し、「暮らしの状況」「心身の状況」を項目別に見つけ、日々の「生活の目標」「活動の目標」を定めています。介護計画書は、利用者・家族の希望を尊重しています。モニタリングは毎月、居室担当者が行き、職員間で共有しています。計画作成担当者は、「利用者の希望にそえる介護計画書」を心がけて作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケアプラン実施項目を意識してケアを行っている。個人記録・連絡ノート等で情報を共有し、又カンファレンスでその時の状態に合ったケアの見直しを行い、計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時等で家族様より相談を受け介護タクシーの手配を行っている。衣類などの買い物で家族様が困難な場合は担当職員が行っている。その時々ニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣スーパーへの買い物や外出行事で地域への関わりを継続している。定期的なボランティアの参加、家族様がボランティアの提供もあった。地域スポーツ祭にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2～4回主治医の往診がある。眼科・歯科精神科の往診もある。その他家族様の希望でかかりつけ医の受診の継続も、家族様の協力で行っている。家族が受診困難な時は職員が同行している。	母体が医療法人ということもあり、協力医療機関との連携体制が整い、利用者・家族の大きな信頼と安心となっています。24時間オンコールのほか、看護師が毎日来館して利用者一人一人の健康状態を記録し、医師による月2～4回の訪問診療があります。利用者や家族から、入居前の医療機関やかかりつけ医の希望があれば、その受診を支援しています。利用者の医療情報は、書面で共有するようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制になっており、毎日、訪問看護師に利用者様の様子を報告し相談している。24時間オンコール体制になっており、緊急時には昼夜問わず対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行っている。入院が長い時は主治医から病状の説明を受けている。退院時には病院からの情報を元にケアを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を基に入居時に説明している。終末期には再度、事業所での出来事、出来ないことを十分説明し、家族の意向に沿った支援を行っている。家族・医療・職員が連携し、穏やかに終末期が過ぎせるよう支援している。	ホーム開設時より終末期を見据えた支援に力を注いでいます。「看取りに関する指針」を医療・介護職員ともに理解し、連携したチームケアを行っています。個々により、また終末期が近づくにつれ変化する利用者や家族の気持ちに寄り添い、その都度支援方法を話し合っています。入院していた利用者が最期をホームで迎えたいと、病院から戻ってくることもあります。「最後まで口から栄養を摂ってもらおう」「最後まで褥瘡などのないきれいな体でいてもらう」ことを大切に、その人らしい終末期を過ごす支援をし、看取りケアをすることは職員の深い学びにもなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し学んでいる。事業所内にはマニュアルを掲示している。事故や急変時の対応を記録に残し、職員間で情報を共有し実践に活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地震や火災(特に夜間)を想定した訓練を繰り返し行っている。夜間の災害時にも近隣の職員が駆けつけることができる体制になっている。	「災害対応マニュアル」を作成し、年2回職員と利用者で避難訓練を行っています。夜間の火事を想定した避難訓練では、自宅にいる職員の対応もシミュレーションしています。元消防署の職員が、消火器の使い方、避難経路の確保などの指導も行っています。食料や備品等の備蓄も整っています。近くの川の氾濫を想定した「風水害マニュアル」も作成しました。利用者の散歩時に、職員と近隣の避難場所を確認することもしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を一人の人として接し、理念の一つである「寄り添ったケア」の意識をもち一人一人の人格を尊重し、自尊心を傷つけない対応を心掛けている。特に排泄介助や入浴介助時はプライバシーに配慮している。	ホーム長の指導の下、職員が心を一つにして「常に笑顔で寄り添うケア」「自分の親を預けたいようなケア」に取り組んでいます。結果、排泄介助や入浴介助のプライバシー保持や、尊厳に配慮した言葉遣いなどが、日常のケアで自然に行われています。重度化が進んで意思表示が難しくなった利用者の場合も、声かけに対する利用者の表情の少しの変化から、その思いを汲み取るようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の性格や表現方法に合わせたコミュニケーションの取り方を心掛け、自ら意思決定しやすい雰囲気や選択肢の提案を行っている。表現できない方は表情や様子から思いをくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務マニュアルを基準としているが利用者様の体調、希望、生活スタイルに合わせ、出来る限り自分のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好まれる服を選び、いつも清潔で季節に合った衣服を身に着けていただけるよう配慮している。訪問美容ではカット、顔そり、カラーを選択してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けを手伝っていただいている。作業中職員とのコミュニケーションで生き生きされる姿も見られる。食事前には献立の説明をしたり料理について会話しながら楽しい雰囲気です。	食事は法人のセントラルキッチンから届き、ご飯と汁物をホームで作りたてを提供しています。オープンキッチンに続くダイニングは、大きな窓から自然光が入る心地よい空間です。利用者は職員とテーブルを囲み、会話をしながら同じメニューを味わっています。好みの調味料を持参して味を調整したり、自宅の湯呑みや箸を使っていたりもします。介助が必要な利用者には、職員が声かけしながら利用者の食べるペースに合わせて食事介助しています。テーブルの高さや食器類も、利用者の体型や状況に合わせて、異なるものが用意されています。時にはホームから「お好み焼き」など外食をしたり、食の楽しみに変化をつけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表で摂取量を把握している。摂取が少ない時には好みの飲み物等を小まめに提供している。摂取能力に合わせた形態で提供している。家族様にも協力していただき、嗜好品の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けや介助にてその人に合った口腔ケア用品で口腔ケアを行っている。訪問歯科を利用されている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導等で排泄パターンを把握し、パットの種類の選定にも気を配っている。トイレで排泄できる方は、出来るだけ継続できるよう支援している。	昼間は、車椅子使用含めすべての利用者がトイレで排泄できるよう支援しています。利用者一人一人の排泄チェック表をつけて排泄パターンを把握し、トイレ誘導にも役立っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食事量や水分量、運動量、腹部マッサージ等で予防に取り組んでいる。便秘時には主治医や看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回のペースで入浴を行っているが、体調や希望に合わせて随時変更できる体制である。馴染みのシャンプーを使用したりして楽しめるよう支援している。個々の状態によってはベットのバス対応を行っている。	利用者の身体状況に合った入浴方法や介助で、安全を確保しています。重度化により入浴が困難な場合は、小まめに清拭しています。脱衣所には、利用者それぞれが愛用しているシャンプーや石けんが並び、自宅からの習慣も大事にしています。柚子湯・菖蒲湯など、季節の楽しみも工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその日の体調、それぞれの体力などを考慮し、自由に休息できるよう支援している。照明や室温、寝具の調整を行い安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容をチェックできるように薬情報をファイルしている。処方に変更があった時は情報を共有し体調の変化に気を付けている。何か疑問があれば薬剤師にも相談確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や調理・片付け・植物の水やり等の役割を持ってもらうことで活気ある生活が送れるよう支援している。時には買い物に行き嗜好品の購入ができるよう支援している。今年はオクラの栽培に取り組んだ。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望、体調、天気に応じて外出の機会を設けている。行事では普段行けない場所へ行っている。外出の困難な方は少しの時間でも外気浴や散歩を行い気分転換できるように支援している。家族様と外出したり、外食されることもある。	近くのスーパーマーケットへの買い物、散歩に出掛けています。寒い季節も、陽が射すのを見計い少しの時間でも、職員がエントランス前やベランダに利用者を誘っています。花や野菜を育てているので、その成長を見るのも楽しみになっています。利用者の希望もあり、近隣の百均ショップにも行きました。ショッピングを楽しんだ後に皆でお茶をし、大好評でした。その様子が機関誌で紹介されています。家族との外食支援も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たないことで不安になる方は少額を持ってもらっている。殆どの方は立て替えている中で、買い物時には支払いをご自分で支払っていただき、買い物を楽しめるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば電話をかけてもらっている。年賀状は毎年、利用者様に書いてもらい、書けない方は代筆している。毎年家族様は楽しみにして下さっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔に明るく、くつろげる空間づくりを心掛けている。キッチンへは自由に入りができ、配膳や片付けを手伝ってもらったり、調理の音や匂いで生活感を感じてもらっている。野菜や花の育成で季節感も感じられるよう支援している。	オープンキッチンに続くダイニングは清潔で、大きな窓があり、緑や空を眺めながら季節の移ろいも感じ取れるようになっています。利用者が三々五々、くつろいでいます。壁面や天井には、職員手作りの行事に合わせた飾り付けもあり、行事への利用者の期待が高まります。ダイニングやエレベーターホールには利用者の習字作品が飾られ、発表の場にもなっています。トイレへ続く廊下には、外来者にもわかりやすい案内掲示がしてあります。エントランスにはベンチが置かれ、外気浴やちょっとした憩いのスペースになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの見え方、空調調整、気の合う、合わない等に配慮し、座席の配置やテーブルの位置などを、その都度検討している。 廊下での立ち話等、その時々で思い思いに過ごすことができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持ち込まれている、仏壇を置いたり、他界されたご主人の写真を飾りお水を供えている方もおられる。家族様が季節に合わせて飾りつけをして下さる。居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	居室の名札には、職員心尽くしの飾り付けがしてあります。室内はいずれも明るく、利用者は思い思いに家具を持ち込み、家族の写真や趣味のもの、ぬいぐるみなどを飾っています。長年書道を頑張ってきた利用者の居室には、これまで使ったたくさんの筆が並び作品が飾ってあります。一人ひとりの暮らしが窺える空間づくりに、質の高い個別ケアを見ることが出来ます。重度化して居室で過ごす時間が増える利用者や、尋ねて来る家族にとっても、落ち着ける場所になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分かり易いよう表示に工夫し「わかること」を活かせるように支援している。建物はバリアフリーになっており、廊下・トイレ・浴室には手すりが取り付けられ、安全に歩行できるよう配慮されている。		